

やなぎだ植物公園の整合性のとれた空間デザインを伴うマスタープランの策定

指導教員 石川工業高等専門学校 建築学科 講師 豊島祐樹

金沢工業大学 工学部 環境土木工学科 講師 片桐由希子

参加学生 石川工業高等専門学校 赤間彩夢・酒井拓斗・前川壮帥・奥村優月・井口美南・片山海陽
金沢工業大学 山田将輝・橋爪裕平・原昂士

1. 活動の成果要約

能登町のやなぎだ植物公園の現地調査、ヒアリング調査を行い、現状の課題の抽出・分析を行った。得られた課題から今後の方向性を示すゾーニング案を作成し、関係者と意見交換を行った。ゾーニング案として将来構想を可視化することにより、関係者同士が話し合う基盤を構築することができた。長期的なゾーニング案の作成と並行して、のとキシマツツジの移植場所の検討やコテージエリアの改修・事業アイデアの取りまとめを行うなど、短期・中期の計画にも貢献した。

2. 活動の目的

能登町のやなぎだ植物公園では、指定管理者である合同会社能登みらい創造ネットワークが公園を中心とした広域的な観光資源開発に取り組み、様々な地域振興策が実施されてきた。具体的には、近年イングリッシュガーデンが造成され、オリジナルのバラのジェラートが開発されるなど、個別の事業は着実に実施されている。しかし、関係者が議論を深めていくにあたって、空間デザインの可視化や全体の方向性を示すようなマスタープランの検討が不足しており、ゼミとの連携により課題解決が求められていた。指定管理者や行政と連携する第三者として、公園及び地域の可能性を引き出すことを活動の目的とした。

3. 活動の内容

○現地調査

6/30, 7/17-19, 8/26, 9/23 に現地調査を行い、園内の空間的な特徴を把握するとともに、課題の洗い出しを行った。能登町内の観光スポットにも訪問し、他のスポットとの差別化をどう図るか検討した。



図1 現地調査の様子



図2 現地での打ち合わせの様子

○指定管理者や行政へのヒアリング

7/19 に指定管理者・合同会社能登みらい創造ネットワークの理事4名へヒアリング調査を行った。

8/30 に公園の担当課である能登町ふるさと振興課へヒアリング調査を行った。

○のとキリシマツツジの移植場所の検討

9月頃に指定管理者から相談を受け、のとキリシマツツジの移植場所の検討を行った。10/20に現地で専門家と具体的な移植場所の検討を行った。



図3 現地での移植場所検討の様子



図4 のとキリシマツツジの移植場所の候補

○コテージエリアの改修・事業アイデアの取りまとめと提案

コテージエリアは、の改修・事業アイデアの検討を開始した。10/20に提案を行った。

○将来のゾーニング案の作成・提案

11/15にやなぎだ植物公園の将来のゾーニング案の提案を行い、11/25に指定管理者の理事らと打ち合わせを行った。

4. 活動の成果

○現地調査

現地調査により、魅力は多くあるが、課題として「子ども向けのアクティビティが少ない」「植物の説明が少ない」「日陰が少ない」「雨やどりできる場所が少ない」「歩行者が歩きにくい」「奥に目的地がない」などがあげられた。提案として「森の中のグランピング」「森の中のアスレチック」「屋根付きの休憩所を点在させる」「ビアガーデン」「大型遊具」「サウナ」などがあげられた。

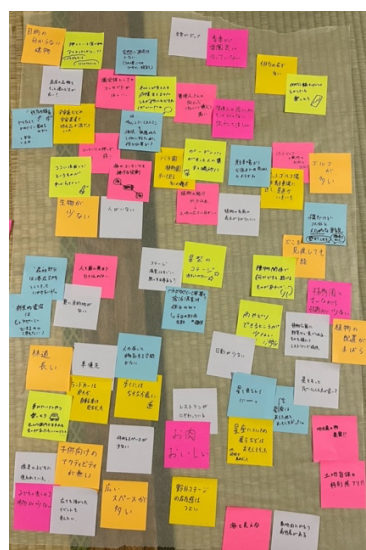


図5 現地で感じた特徴・課題



図6 提案・アイデア

図7 コテージエリアの改修・事業アイデア

○将来のゾーニング案の作成・提案

11/15 にやなぎだ植物公園の将来のゾーニング案の提案を行った。このゾーニング案はあくまでも自分たちの調査や検討で作成した仮のものであり、関係者と十分に議論して作成したものではない。ゾーニング案として一旦可視化をすることで、議論が活発化することを狙って作成・提案を行った。

ゾーニング案を元に打ち合わせをすることで「現実的にはこのエリアは使うことが難しい」「このゾーニングならこの場所でこういったイベントができるのでは」など、新たな話の展開が生まれた。

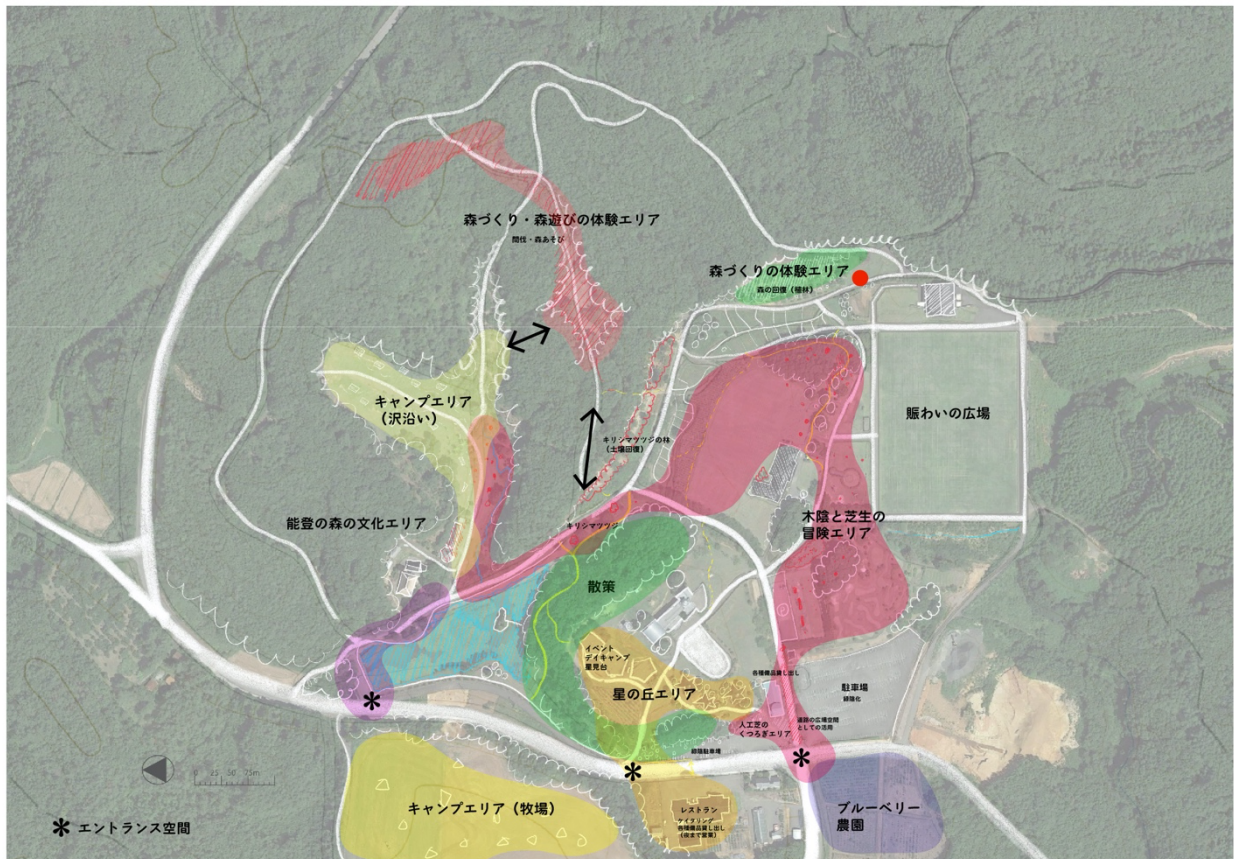


図8 作成・提案した将来のゾーニング案（2022年11月時点）

5. 次年度以降の計画

次年度以降は、関係者と議論を重ねながらゾーニング案を更新していくとともに、エントランス空間、各エリアの詳細な空間デザインに取り組んでいきたい。また、園内での実験的な試みについても具体的に計画し、一つずつ実践していきたい。子どもの遊び場となる遊具の計画についても全体の構想を描きながら具体化していく予定である。

6. 活動に対する地域からの評価

指定管理者の合同会社能登みらい創造ネットワークからは「ご提案いただいたゾーニング案が今後のガイドラインになりそう」と評価をいただいた。また、行政からも今後の計画のベースとするために具体的な計画案を求められている。今後も地域に貢献できるように継続的に活動していきたい。